



第6号 野洲市手をつなぐ育成会 発行者 岩崎 裕子 印刷所 につこり作業所 TEL588-0503

一年をふりかえって

会長 岩崎 裕子

昨年の十月に、野洲文化ホールにおいて、手をつなぐ育成会の県大会を開催することができました。多くの方々の善意と協力に支えられ、感動一杯の大会となりました。

ただ子どものためにと親の会を立ち上げ、真摯に努力してこられた保護者の力は本当に大きなものです。理想や夢を語るだけでなく、それに近づくためには、どう行動するかを私たちに学んでいかなければなりません。すくなく、力強いつながりがあるということを実感し、また、若い保護者の方々にも知ってほしいと願っています。

この時期に何回か記述してきたが、私と障がい者との出会いは就職直後の約六十年前のことです。当時は教育施策は何もなかった。でも、周りの無理解と無関心に苦しむ多くの人たちが現存していました。課題の結論は「人として生きる」ことへ

私の最期の願い

相談役 相談役 太田 源太郎

「対法」であり、親・教員の「使命」への自覚であると思います。

この機会に、親・教員・関係者の知恵を結集して「使命」(課題)を目標としていきたいと思います。

障がいがあっても、子どもたちはそれぞれに力を持っています。将来を見据えて、その力を発揮できる就労場所や、親元を離れても安全に生活できる住居等、課題は山積みです。手探り状態で、どの方向に進んで行けばよいのかわからない時、育成会の多くの方々に助けていただきました。自分一人で頑張らなくてもいいということ、辛い気持ちを分かってもらえるということはとても励みになります。

山積みの課題も協力し合って、少しずつ解決していける自信を、この一年でもらいました。この春からは新しい役員の方と交代しますが、私にできることは協力して関わっていききたいと思います。一年間ありがとうございました。

ほしい。私たちの願いは必ず当事者に通じることで成り立ちは数多く報じられています。ときどき「さらさら」の揮毫を見つめてもらえると幸いです。三、「螢の里」へのプレゼント 私の満八十一歳の誕生日記念に、「螢の里のうた」を贈呈しました。「幾多のハンディ乗り越えて」

「大好きなことへのチャレンジ」「幸せ一杯」などの言葉を挿入しました。今年度の卒業生の皆様への「祝福」を添えて、本文を温めた次第です。もっとも「生きる喜び」を共々が求めていきたいと思います。

退職後、青勤務をしてきた滋賀県総合教育センターで教育相談の仕事に就いてきた。相談に来られる保護者の中には、先生から「お子さんは学校でまじめにやっていますよ。お母さんの気にしすぎですよ。大丈夫ですよ。しばらく様子を見たらどうですか」と言われ、家庭に帰るやいなや、いつものように荒れる我が子の姿を目の当たりにして、どうしたらよいものやら、途方に暮れ、この状況をわかつてくれるところをを探し探しやっています。

学校での学習も従来通りの教え方をしているところも多く見受けられます。私の子どもは頃はラジオで、保護者の皆さんが子どもの頃にはテレビで放送局から一方的に送られてくる情報を楽しんでいた。しかし、今の子どもたちはコンピュータの時代を生きています。子どもたちはディスプレイ上の画面を自分で自由に操作し動かして楽しんでいるのです。この子どもたちに見合った指導方法があるはずだ。

今、子どもたちが理解されない多くの問題は「現代社会に生きる子どもたちの姿の無理解さ」から生じていることが多いといつても過言ではありません。「障がい」そのものについても同じことが言えると思います。子どもたちの見せる姿は障がいのあるなしにかかわらず、学校、地域、家庭で違うのが普通です。もっと子どもの本当の姿を理解してあげてほしいと思います。今に生きる子どもたちだからこそ、より複雑なのです。

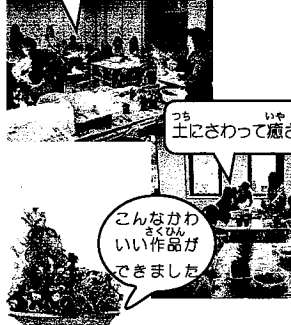
特別な支援を必要とする子どもたちを真に理解し、将来への自立、社会参加にむけて各成長段階でどのような支援をしていけばよいか、特別支援教育を進めている専門家には「個別指導計画」「支援計画」を作るよう各関係機関に働きかけています。この計画立案は、学校の先生や保護者、地域の発達支援センターや関係者の共同作業が必要になります。しかしながら未だ県内で「個別指導計画」を保護者に見せなければならぬといういきままりはあります。などと言われ言われるところもあります。今やインクルーシブの方向に社会は動いています。障がいのある人もない人も共に生きる社会の樹立に向けてどう考えればよいのか、もっと真剣に考えていくべきだと思います。でも、なかなか親身になって考えてくれる段階には至りません。

今こそ仲間の輪を広げよう

相談役 久郷 悟

そうした今、親同士がつながりあうことは重要な鍵になります。上がることは重要な鍵になります。特別な支援は受けてはいませんが、育成会に入ると「役員があたりから」という考えだけで育成会に入らなというのとは大きな間違いだとも思います。確かに野洲の育成会は様々な障がいや考えの会へとさらに進化してはなりません。進化するには育成会にいろいろな障がいのある人々が参加し、変革に向けて努力しなくてはなりません。野洲市の特別支援教育は、全国のモデルになっている湖南市に負けない可能性を秘めていると信じています。

どんな奇想も受け入れられるかな、楽しみだな



土にさわって癒されます

微笑ましい光景

副会長 三河 洋子

園芸福祉、聞きなれないこの言葉にかにも堅苦しい感じの印象を受けた記憶がよみがえります。昨年十一月、親子の寄せ植え教室を開催しました。クリスマスシーズン到来を感じさせる時期にです。開催にあたり野洲市で活動をされている「滋賀の園芸福祉研究会」に依頼し、親子が土、花、そしてみどりを通じて触れ合う機会をつくってもらいました。色鮮やかな花々を前に保護者や子ども目を輝かせています。

野洲市は、自然に恵まれた土地です。みどり豊かで美しい景色を楽しむことができます。しかし日ごろ目にすることができない、なかなかこの手で触れる機会が少ないように思われます。そんな現状を感じさせるいかに微笑ましい光景。親子が花や緑にその手を触れ、心を耳を傾ける親子、創意工夫で一つの作品を創作していきます。赤の毛糸を寄せ植えした作品に垂らします。綿を雪にたとえ、クリスマスに飾るにはうってつけの作品が仕上がりました。参加したみんながそれぞれに満足している様子でした。私には園芸福祉という活動の本質を理解するに至っていませんでしたが、少なくとも今回開催された寄せ植え教室でのあの光景は老若男女、障がいがあるにも関わらず共有できる温かな空間だったと自負しています。たった二時間程度の寄せ植え教室が日ごろの疲れを癒し、親子の憩いの場となりました。考えますに、日ごろ難しいと感じる言葉や状況でもそれに触れてみると意外とそこには隠れた楽しみや本質があるのではと、感じさせられました。

特別な支援を必要とする子どもたちを真に理解し、将来への自立、社会参加にむけて各成長段階でどのような支援をしていけばよいか、特別支援教育を進めている専門家には「個別指導計画」「支援計画」を作るよう各関係機関に働きかけています。この計画立案は、学校の先生や保護者、地域の発達支援センターや関係者の共同作業が必要になります。しかしながら未だ県内で「個別指導計画」を保護者に見せなければならぬといういきままりはあります。などと言われ言われるところもあります。今やインクルーシブの方向に社会は動いています。障がいのある人もない人も共に生きる社会の樹立に向けてどう考えればよいのか、もっと真剣に考えていくべきだと思います。でも、なかなか親身になって考えてくれる段階には至りません。

### 県大会を終えて

大会実行委員長 田中 規久子

平成二十二年十月十七日野洲文化ホールにおいて、第四十五回滋賀県知的障がい者教育福祉振興大会が「おいでやす、安心と生きがいのあるまち『野洲』へインクルーシブな社会の実現をめざして」をテーマに開催されました。知的障がいのある本人、関係者等、約七百八十名の参加がありました。この大会は年に一度滋賀県内各地を順番に回って開催されますが、地元野洲で行われるのは今年が初めてです。開催日の一年ほど前でした。それから地元育成会、行政、教育福祉関係者で実行委員会を立ち上げ、主に成人した子どもをもつ親が中心となり、相談役の久郷先生からも多大なお力添えをいただき、一年間の長期にわたって準備を進めてきました。

近年、学齢期の子どもをもつ保護者の育成会離れが心配されています。どうすれば関心を持ってもらえる育成会にしていくのが課題でもありました。そこで、この県大会が育成会活動に関心を向けてもらえるきっかけになればいいねと、実行委員会で内容を検討していききました。そして、何よりも障がいがある本人たちをメインとした、これからの未来を思い描ける「野洲らしい」大会にしたいと決めました。次は資金集めと地域の理解を得る活動です。そのために、大会冊子に掲載する協賛広告集めから始めました。各学区ごとに分かれて、地域の企業にまさに飛び込みでお願いに行きました。これには若い会員さんたちがとてもよくがんばってくださいました。そして百五十件もの広告が集まり、おかげで赤字を出さずに大会を運営することができました。さて、いよいよ当日です。お天気に恵まれた中で、式典、表彰式、そして

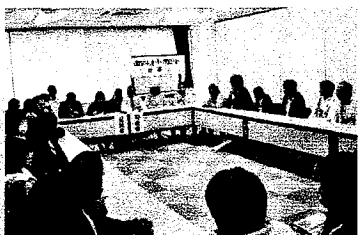
て今回初めて本人たちによる決議がなされました。その後、「あたりまえに地域とつながって・・・」をテーマにパネルディスカッションが行われ、地元若井草香さんのすばらしいエレクトーン演奏「地上の星」で幕が上がりました。ここでは、毎日の生活の様子や話され、そこから地域での障がいがある人のつながりなど各方面の方々の有意義な話がいただけました。午後はダンスクラブ、成人の方々の「ひよっこダンスワークショップ」のパワーあふれる演技で、身体表現による思いを発表することができました。続いて「障がいのある人の権利を守る」障がいのある人も暮らしやすい時代に」と題して毎日新聞社論説委員の野沢和弘さんの講演がありました。一日を通して本人部会では「生活・仕事・趣味」の3テーマ別の話し合いに八十名、歌つたり体を動かす会には百三十名が参加されました。

このように全体にわたり、野洲大会では、本人たちにより多く出演していただくことで、社会に生きる一員としての自覚を持つたり、周りを取りまく人々も同じ道を歩んでいるという気持ちをもつことが大事だと思いました。大会当日のボランティアには、福祉関係者や、特別支援学校、養護学校の先生方、育成会の親たち等、多くの方々それぞれがその担当分野で協力くださり、本当に感謝しております。この長い準備期間中、数えれば七十回にも及ぶ打ち合わせ等がありました。それなりに大変でしたが、わが子の小さい頃から育成会において、長い付き合いが生まれることができました。紙面をお借りして関係者の方々に心よりお礼申し上げます。ありがとうございます。



### 本人部会—テーマ別に話そう会

「生活」「仕事」「趣味」の3部会に分かれて日ごろの悩みや思い、情報を交換し合いました。仲間どうしのつながり、仲間づくりの第一歩になったと思います。



本人部会の思いや願いを中心にすえて

おおいに盛り上がったカラオケ大会!マイクが途切れることはありませんでした。

### 第45回滋賀県知的障がい者教育福祉振興大会 本人部会 決議

- 1 医療費の負担を統一してください
- 2 療育手帳をカード化してください
- 3 本人活動は私たちの活動です。本人の会のことは支援者が決めないでください
- 4 障害者差別禁止、虐待防止法をつくってください
- 5 グループホームを増やして、利用しやすくしてください
- 6 電車やバスなど、もっと使いやすくしてください
- 7 電車の運賃の割引や定期券割引をしてください
- 8 障害のあるなしに関わらず健常者と一緒の給与にしてください
- 9 私たちが安心・安全な職場にしてください
- 10 滋賀県に本人部会を広まるようにしていきたい

滋賀本人部会「なかよし会」から滋賀県の仲間へ、以上、決議します  
平成22年10月17日  
滋賀本人部会「なかよし会」 一同



本人部会の決議を自分たち自身の声で発表しました。

### 平成22年度野洲市手をつなぐ育成会事業報告

がっ	ち	よう	じ	じ	じ	じ	じ
月	日	び	ぎ	ぎ	ぎ	ぎ	ぎ
		曜	業	業	業	業	業
		日	内	内	内	内	内
			容	容	容	容	容
4	24	土	役員会 (なかよし交流館)	7	30	土	野洲市福祉交流事業 (マイアミランド)
5	28	金	滋賀県手をつなぐ育成会通常総会 (県農業教育情報センター)	10	17	日	第45回県知的障がい者教育福祉振興大会 (野洲文化ホール)
5	29	日	役員会「幹事・保護者評議員会」 (コミセンきたの)	11	23	火	チャリティーバザー開催 (健康福祉センター)
6	~30	水	会員募集	11	27	土	クリスマスの寄せ植え (コミセン三上)
6	12	土	野洲市手をつなぐ育成会総会及び保護者会 (コミセンぎおう)	12	1	水	余暇支援 (神戸ルミナリエ)
6	26	土	第6回「スポーツ大会」やすりんピック (なかよし交流館)	1	29	土	OBレクリエーション (栗東・ポーリングジム)
7	3	土	第29回滋賀県スペシャルスポーツカーニバル (長浜ドーム)	2	26	土	平成23年度役員選出 (コミセン三上)
7	16	金	チャリティーバザー開催 (アルプラザ野洲)	3	7	月	広報「きらきら」発行